

授業概要

科目名	臨床検査演習Ⅰ				授業の種類	演習	講師名	上根 英嗣
授業回数	15 回	時間数	30 時間	1 単位	必修・選択	必修	配当学年 時期	1 年 後期
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>言語聴覚士が行う主な言語機能検査や認知機能検査などの検査バッテリーについて理解できる。</p>								
<p>【実務者経験】</p> <p>言語聴覚士としてツカザキ病院に勤務、急性期、回復期、外来の失語症、高次脳機能障害・嚥下障害・構音障害分野でのリハビリテーションに従事。</p>								
<p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>演習を通して言語聴覚士が行う主な言語機能検査や認知機能検査、嚥下機能検査などの検査バッテリーについて理解し、実施する。</p>								
<p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】</p> <p>言語聴覚士が行う主な言語機能検査や認知機能検査、嚥下機能検査などの内容を把握し、検査の目的、方法を理解できる。これらの検査を実施し、結果の理解ができる。</p>								
回数	講義内容							準備物(教材)
1	言語聴覚士が行う検査に共通する意義や目的、配慮を理解できる。							
2	簡易な認知機能検査(HDS-R)を理解し、実施できる。結果が理解できる。							検査道具・記録用紙
3	簡易な認知機能検査(MMSE)を理解し、実施できる。結果が理解できる。							検査道具・記録用紙
4	簡易な認知機能検査(コース立方体組み合わせテスト)を理解し、実施できる。結果が理解できる。							検査道具・記録用紙
5	簡易な認知機能検査(レーヴン色彩マトリックス検査)を理解し、実施できる。結果が理解できる。							検査道具・記録用紙
6	簡易な言語機能検査(STAD)を理解し、実施できる。結果が理解できる。							検査道具・記録用紙
7	複雑な言語機能検査(標準失語症検査)の概要と目的、実施方法、採点法を理解できる							検査道具・記録用紙
8	複雑な言語機能検査(標準失語症検査 1単語の理解～4仮名の理解)が実施できる。							検査道具・記録用紙
9	複雑な言語機能検査(標準失語症検査 5呼称～7動作説明)が実施できる。							検査道具・記録用紙
10	複雑な言語機能検査(標準失語症検査 8まんがの説明～10語の列挙)が実施できる。							検査道具・記録用紙
11	複雑な言語機能検査(標準失語症検査 11漢字単語の音読～14短文の音読)が実施できる。							検査道具・記録用紙
12	複雑な言語機能検査(標準失語症検査 15漢字単語の理解～18書字命令に従う)が実施できる。							検査道具・記録用紙
13	複雑な言語機能検査(標準失語症検査 19漢字単語の書字～25短文の書取)が実施できる。							検査道具・記録用紙
14	複雑な言語機能検査(標準失語症検査 26計算)が実施できる。 複雑な言語機能検査(標準失語症検査)の結果をまとめ、理解できる。							検査道具・記録用紙
15	簡易な嚥下機能検査(反復唾液嚥下テスト、改定水飲みテスト)を理解し、実施できる。結果の理解ができる。							検査道具・記録用紙
	定期筆記試験							
<p>【使用教科書・教材・参考書】</p> <p>標準失語症検査マニュアル 適時検査用具、マニュアル、検査用紙を使用します。</p>								
<p>【準備学習・時間外学習】</p> <p>あらかじめ検査のマニュアルを熟読して授業に臨んでください。 授業時間外でも十分に手技を練習する必要があります。</p>								
<p>【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】</p> <p>試験の結果を100点満点として成績を評価する。 試験は定期試験のみ実施とし、 60点以上の場合に科目を認定する。</p>								